

### 稲作技術 ~冷夏こそ腕の見せ所~

4月10日、気象庁がエルニーニョ現象発生により冷夏の恐れと発表し、次いで5月23日にも同様の予報を発表しました。4月にお送りした緊急情報にてお伝えしましたが、苗作りからの冷夏対策は出来ましたでしょうか？

今回は冷夏によって起こる問題やその対応策について考えていきます。

#### 冷夏とそれに伴う問題



日照不足  
低温  
多雨



軟弱徒長  
倒伏  
稔実不良  
病虫害  
(イモチ病など)

軟弱徒長による影響大

軟弱徒長の予防が倒伏・病虫害(イモチ病など)の予防に

#### Pフォスタ



葉面散布材

NET 1kg

#### MリンPK



発酵  
リン酸肥料

NET 20kg

#### リーフアップV1



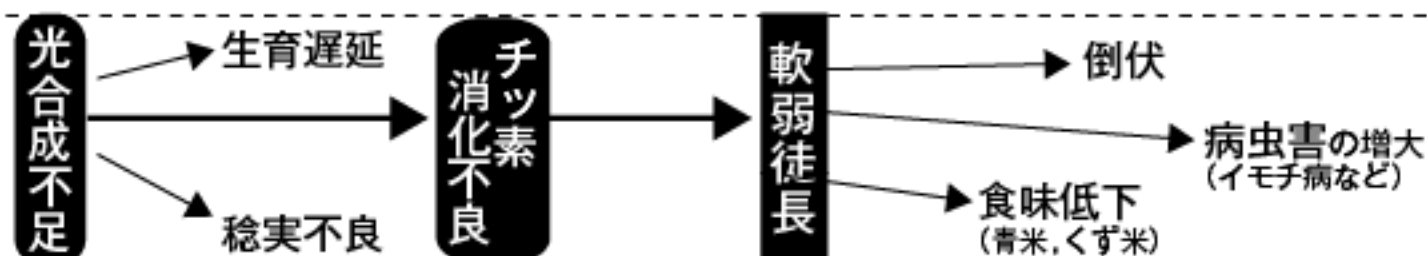
葉面散布材

5L

500mL

軟弱徒長 対策にはMリンPK・Pフォスタ・リーフアップV1が効果的です。

軟弱徒長すると次のような問題が引き起こされます。



これらの問題の根本を解決するためには、**光合成を促進させ、チッ素の消化不良を解消すること**が必要です。

### 【軟弱徒長・倒伏対策】 (10a当たり)

## MリンPK



NET 20kg

出穂45~30日前、調節肥として20~30kgを機械散布または、流水施肥して下さい。

※スーパーMリンPKの場合、使用量を2/3に減らして下さい。

日照不足が続いている場合、以下の対策が有効

- 穂肥のMリンPKは通常より増量し、チッ素肥料は通常より減量して下さい。  
(例: MリンPK 20kg → 30kg, 硫安10kg → 5~8kg)
- 穂肥のチッ素肥料にアミノ酸を利用して下さい。  
(例: 硫安10kg → 硫安3~5kg + アミビタゴールド 10kg)
- 二回目の穂肥はMリンPK 20kgのみとして下さい。

### 【軟弱徒長・病虫害(イモチ病など)対策】 (10a当たり)



Pフォスタ 300~500倍  
リーフアップV1 150~200倍

混用100~200Lを動噴で散布

※葉面散布は下記のタイミングで行うと効果的です。

出穂前/出穂中/出穂後(穂ぞろい)

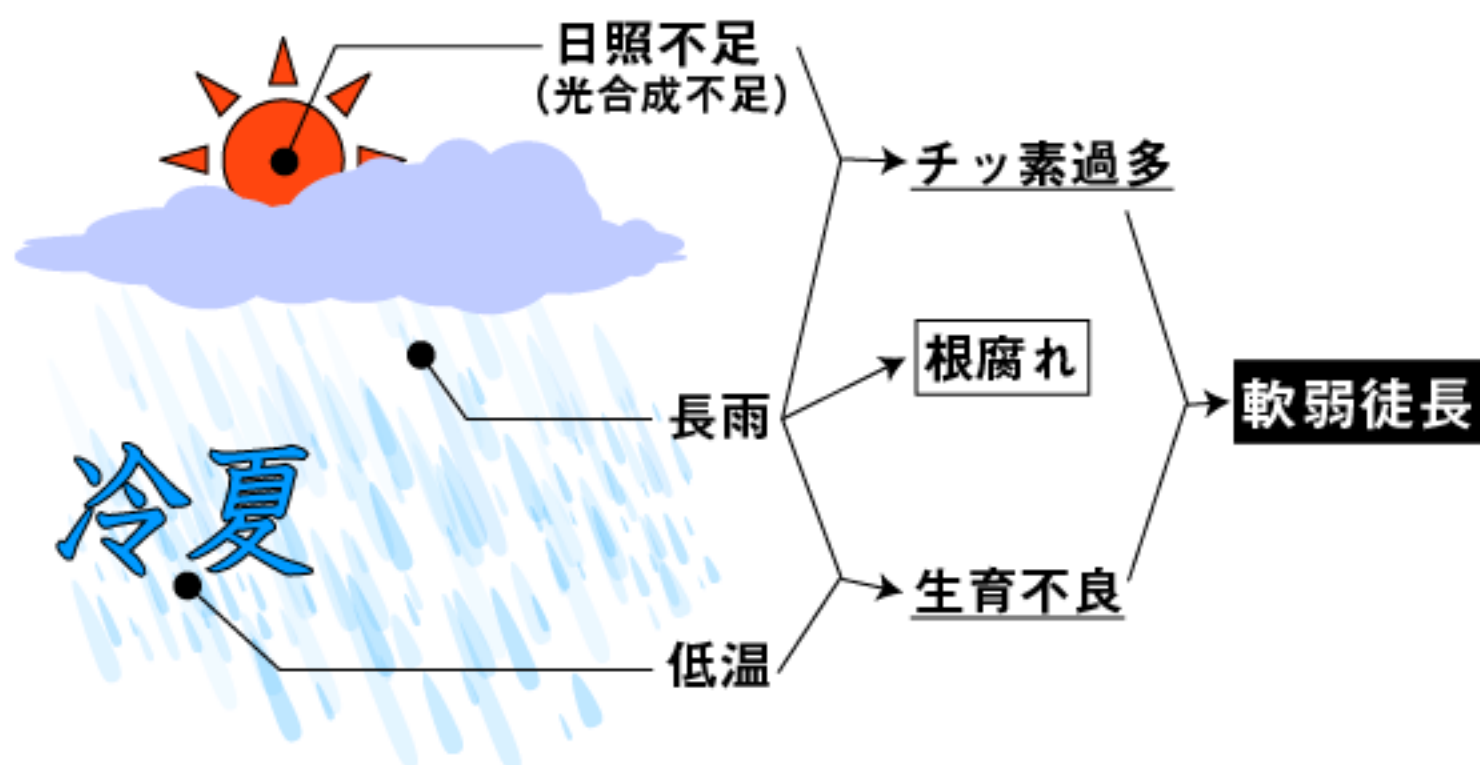
※圃場全体の葉面散布ができない場合は、畦畔沿い2~5mの部分だけでも散布して下さい。

(隣接水田からのイモチ菌の進入を予防します)

### 冷夏の畑作は「根力」が大切

4月に気象庁がエルニーニョ現象の予測を発表し、今年は5年ぶりの冷夏になる見込みです。4月にお送りした緊急情報にてお伝えしましたが、苗作りや土作りからの冷夏対策は出来ましたでしょうか？

今回は冷夏を乗り切るため「根力」について考えていきます。



冷夏のトラブルは日照不足と多雨により、以下の2パターンに分かれます。

- 多雨によってチッ素過多、軟弱生育となる
- 肥料分の流亡と低温で生育不良になる

どちらの場合でも軟弱徒長し、病虫害の発生が多くなります。  
また、多雨により根腐れ・根の活力低下が予想されるので、  
症状を見ながら各対策を行って下さい。

チッ素過多も生育不良も、リン酸を効かせ  
根の活性を高めることがポイントです。



※10a当たり

### 【軟弱徒長対策】 (チッ素過多, 生育不良)

MリンPK — 20~30kg 全面散布

リン酸効果で光合成促進、チッ素過多の解消



### 【軟弱徒長・病虫害対策】 (葉面散布)

Pフォスタ ————— 500倍液  
リーファップV1 ————— 500倍液

→ 混用散布  
※雨間に2~3回 連続散布

リン酸と有機酸の葉面散布で、  
早期に軟弱徒長を改善し、耐病虫性も向上



リーファップV1



### 【根の活力向上・生育促進】

アミビタゴールド ————— 5kg  
サンレッド ————— 50~100mL

→ 混用して散水  
またはカン水できる水に溶かして使用

バイオ根助500倍液の散水

根の動きを活発にし、吸収効率の良いアミノ酸で  
生育促進、耐病虫性も向上させます

アミビタゴールド



サンレッド



※長雨により根腐れ、または根の活力が低下している場合、  
根茎施肥と葉面散布を併用して下さい。

### 冷夏対策 ～低温、長雨、日照不足～

今年の4月、気象庁による冷夏予報が発表され、弊社も緊急情報にてお伝えしましたが、冷夏対策は進んでいますでしょうか？冷夏では日照不足によって光合成が不足しがちになり、長雨と相まって様々な悪影響(糖度・着色不良、貯蔵栄養分不足、病気の増加・拡大など)を及ぼします。

今回はこれらの対応策について考えていきます。

#### 冷夏とそれに伴う問題

日照不足と長雨への対策を十分に実施することが、冷夏のトラブルを未然に防ぐポイントです。



代謝不良

- チッ素同化の遅れ
- 炭素率の低下

展葉の遅れ

- 活動葉の働きが遅くなる

新梢の徒長

- 生殖成長への転換の遅れ

生理落果

- 結果量の減少

耐病性低下

- 防除回数  
の増加

肥大不足

- 小玉傾向

糖度不足  
着色不良

- 品質低下

### 【日照不足・低温・長雨対策】

日照不足時は光合成が足りず、生育・肥大不足、着色不良、糖度低下につながります。また、長雨となり低温が続くと、チッ素の消化不良、生育・肥大不足となり病虫害も増大します。

#### 光合成促進、糖度・着色向上

降雨による過剰なチッ素分をMリンPKで即効的に消化  
(新梢適期停止)

MリンPK 20~30kg / 10a



#### 生育・肥大促進

リーフAとPフォスタで働き葉を早期に作って働かせる

リーフA液材 500~800倍液  
(3~5日おきに2,3回)

Pフォスタ(葉面散布) 500倍液



#### 耐病性向上

リーフアップV1と葉面栄養材で側面的に肥大を応援

リーフアップV1(葉面散布)

健康促進 300~500倍液  
(5~7日おきに連用)



※日照不足で光合成能力低下の為、アミノ酸と有機酸を葉面から補うようにしましょう